

次世代の食料供給の担い手：
ラテンアメリカの農業経営体

調査研究報告書

清水 達也 編

2019年3月

独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

調査研究報告書

地域研究センター 2018_2_40_002

「次世代の食料供給の担い手：
ラテンアメリカの農業経営体」研究会

はじめに

本報告書は、アジア経済研究所で2018年度から2年間の予定で実施している「次世代の食料供給の担い手：ラテンアメリカの農業経営体」研究会の1年目の研究成果である。

当研究所では2016～2017年度に「途上国における農業経営の変革」研究会を実施した。この研究会は、農業とそれをめぐる環境の変化に対応して、アジアやラテンアメリカで成長を遂げている農業経営体の特徴を明らかにした。両地域では経済における農業の位置づけや、農業を取り巻く社会経済的な環境、そして経営規模などが大きく異なる。その中で両地域にまたがる共通点を探すために、両地域で一般的な家族経営に焦点を当てた。分析の結果、成長している経営体は、外部の経営資源を積極的に導入するとともに生産者組織などの中間組織を活用していること、経営規模の拡大と付加価値の高い農産物の生産を手がけていること、その中で経営者は、生産以外の経営管理機能に力を入れていることが分かった。

本研究会はこの研究会を発展させる位置づけの研究会である。分析対象をラテンアメリカ地域に限定し、輸出を目的とした大規模で企業的な経営体を中心に注目している。こうすることで、外部からの経営資源の調達や、その経営管理について、より詳細に分析することを目標としている。

この研究会では「途上国における農業経営の変革」研究会に引き続き、清水が主査を務めた。また、前の研究会でメキシコの輸出向け青果物を分析した上智大学外国語学部教授の谷洋之氏にも引き続き参加していただいた。このほか、チリ経済に詳しいアジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員の北野浩一氏、チリの輸出向け青果物産業について研究をしている立命館大学政策科学部助教の村瀬幸代氏、民間の金融機関で経験を積み、現在農林水産政策研究所研究員としてラテンアメリカの農業動向を分析している林瑞穂氏にも加わっていただいた。

本研究会の実施にあたっては、東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科の内山智裕教授に、国内外の『新しい農業経営』を対象とした研究動向について情報を提供していただいた。ここに記して感謝したい。

なお、「途上国における農業経営の変革」研究会の成果として出版した研究双書（清水達也編2019『途上国における農業経営の変革』アジア経済研究所）も合わせて参照していただきたい。

2019年3月

編者

執筆者（執筆順）

清水 達也 アジア経済研究所地域研究センター
ラテンアメリカ研究グループ長

谷 洋之 上智大学外国語学部
教授

北野 浩一 アジア経済研究所地域研究センター
主任調査研究員

村瀬 幸代 立命館大学政策科学部
助教

林 瑞穂 農林水産政策研究所国際領域
研究員

目次

- 序章 次世代の食料供給を担う農業経営体
—家族経営と比較した構造と経営管理の特徴—
清水 達也・・・1
- 第1章 NAFTA 後のメキシコおよび米国における蔬菜生産の変化
—労働力不足への対応を中心に—
谷 洋之・・・13
- 第2章 チリ農業の生産性に関するマイクロデータの利用可能性
北野 浩一・・・35
- 第3章 チリの輸出向け果樹園経営における労働力利用
—歴史的・制度的背景と近年の季節労働者の利用状況に関する予備的考察—
村瀬 幸代・・・52
- 第4章 ブラジル中西部における大規模農業経営体の拡大
—ファミリービジネス研究の視点から—
清水 達也・・・68
- 第5章 ブラジル農業金融の特質について
—米国農業金融との比較に基づく試論—
林 瑞穂・・・84

調査研究報告書

地域研究センター 2018_2_40_002

[次世代の食料供給の担い手：ラテンアメリカの農業経営体] 研究会

2019 年 3 月 31 日発行

発行所 独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2

電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。
